

第1回 平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会 議 事 概 要

開催日時：平成30年8月9日（木） 10：00～11：00

開催場所：広島 YMCA 国際文化センター（2号館 4階 大会議室）

【内容】

- ・土田委員を委員長に選任
- ・事務局より、平成30年7月出水の概況、被災の概況、今後の検討の流れについて説明

【委員からの主な意見】

◆河川・ダム関係◆

- ・今回の降雨での野呂川ダムの時系列の流入量・放流量、ゲートの状況を確認すること。
- ・下流域が氾濫している中で、棕梨ダムの水位を下げないような操作ができなかったのか検証が必要である。
- ・野呂川の氾濫の検証においては、野呂川ダムだけではなく下流の排水ポンプの能力やその稼働状況についても合わせて検証していく必要がある。
- ・ダムの操作では、降雨波形が操作に大きく影響するため、気象庁関係の予測雨量を取り入れた分析を行うことが重要である。
- ・被災流量の検証においては、河道内の現象（流れ）がわかるよう整理し、横断構造物が河川の流れにどのように影響したのか、また、今後どうして行くかについても検証が必要である。

◆砂防関係◆

- ・石積構造の砂防ダムが被災した要因について検証する。
- ・治山ダム・ため池については、関連する部分があるので、検討した内容について相互に情報共有しておく必要がある。
- ・人間の行動原理に係るような避難行動に関しては、危機管理部局で検討を行うため、部会では土砂災害に係る避難行動について検証する。

◆全 体 ◆

- ・河川部会では主に4河川・3ダムを中心に検討することとし、被災形態が複数にまたがるような河川についても適宜追加し検討する。
- ・砂防部会においては、土砂流出範囲と設定区域の比較、区域指定と避難行動との関連性などについて検討する。
- ・第2回検討会は10月を予定し、それまでに各部会でとりまとめを行う。